第２回

日本犯罪社会学会　主催

講座「犯罪学」

日程：2022年2月5日（土）、12日（土）、19日（土）、26日（土）（計4回）
10:00～16:50（※26日のみ10:00～15:20）
会場：オンライン
対象：「犯罪学」に興味のある学生・実務家など

日本犯罪社会学会第17期企画調整委員会では、2020年に引き続き、2022年に犯罪学の普及を目的とした、講座「犯罪学」を下記の要領で実施いたします。

本講座は、犯罪学理論の体系化を中心におきつつ、犯罪学の最先端のテーマや議論を扱います。各テーマに精通した講師陣による講義により、犯罪学の考え方やこれまでの到達点を知ることができます。ぜひご参加ください。

参加費

※参加有料・申込制

- **一般　10,000円**
- **学生　8,000円**

※学生の方は割引コード「5931」と入力してください。
※お客様の都合によるチケット購入後の払い戻しは、一切できません。

定員：50名程度（先着順）

※定員に達し次第、受付を終了します。

受付方法

URLまたはQRコードへアクセスし、お申し込みください。

2021年10月16日から受付開始

Peatix

（チケット申込サイト）

https://criminologysem2.peatix.com

お問い合わせ
日本犯罪社会学会　企画調整委員会
【E-mail】
criminologysem.kikaku@gmail.com
【URL】http://hansha.daishodai.ac.jp/

講座「犯罪学」プログラム

※都合により、一部変更となる場合があります。

time	1回目 2022/2/5（土）	2回目 2022/2/12（土）	3回目 2022/2/19（土）	4回目 2022/2/26（土）
10:00 ～ 11:20	**講座「犯罪学」** **イントロダクション** **（浜井浩一・龍谷大学）** 犯罪学って何だろう。コトバンクは、犯罪学が総合科学として、最終的には犯罪の少ない快適な人間社会を目ざすことには変わりはないと記している。犯罪学の過去・現在・未来をざっくり見ておこう。	**理論②** **コミュニティと犯罪** **（原田豊・立正大学）** 社会学的な犯罪研究にとって、コミュニティの問題は常に重要な関心事であるとともに扱いの難しいテーマであった。本講では、その研究の沿革や新展開を時代背景とともに検討し、今日のわが国にとっての含意を論じる。	**理論⑥** **緊張理論・アノミー理論** **（野田陽子・淑徳大学）** 緊張理論について、アノミー論を中心にその学説史上の意義に触れながら系譜論的に展開したうえで、この理論の、政策を含む現実への適用可能性と今後の理論的発展の可能性ならびに方向性について考える。	**トピックス②** **少年法** **（武内謙治・九州大学）** 本講義では、少年非行の情勢を確認するとともに、少年非行への対応として少年司法という特別な制度がなぜ必要とされる理由とその合理性を考える。「特定少年」（18・19歳の少年）の扱いをめぐる法改正についても検討する。
12:30 ～ 13:50	**基礎①** **犯罪対応の制度** **（本庄武・一橋大学）** 犯罪対応の制度とは、犯罪だと疑われた行為が正式に「犯罪」とされていく過程を規律する制度のことである。この過程を概観することで、犯罪に対する一般的な見方とは異なる動的な犯罪観を提供したい。	**理論③** **環境犯罪学** **（松川杏寧・防災科学技術研究所）** 犯罪が起こる「場」に着目し、その視点から犯罪を予防、減少させることを目的として発展してきた一つの体系だった分野である。その概論と、それらにもとづいた犯罪予防研究について、社会実装の視点を交えて学ぶ。	**理論⑦** **サブカルチャー・学習理論** **（齊藤知範・科学警察研究所）** 犯罪学には、犯罪・非行は後天的に学習されるとみなす立場の理論がある。本講では、犯罪学の古典や身近な犯罪・非行を例に挙げながら、人がよりどころにする集団に接して犯罪・非行へと至る道筋を学ぶ。	**トピックス③** **刑事司法と福祉** **（水藤昌彦・山口県立大学）** 刑事司法と接触した人に対する福祉的支援について、国内外における展開の概要を確認したうえで、支援にあたっての理論的基盤を確認する。本講義では、刑事司法と福祉の関係の現状を踏まえながら、そのあるべき姿について考えてみたい。
14:00 ～ 15:20	**基礎②** **犯罪学の研究方法** **（岡邊健・京都大学）** 犯罪学の実証研究には、計量的（統計的）方法・質的方法のふたつがあるが、本講では前者の研究を行う/理解するうえで必須となる入門的知識を学ぶ。犯罪量を測定する3つの方法についても触れられる。	**理論④** **離脱・ライフコース理論** **（津富宏・静岡県立大学）** 離脱（desistance）とは、非行や犯罪をしないようになること（あるいは、そのプロセス）を指す概念である。本講義では、離脱現象説明するにあたって、従来の犯罪学がどこまで貢献しうるかを中心に概説をする。	**理論⑧** **ラベリング理論** **（山本功・淑徳大学）** ラベリング論の社会学説史を概観し、構築主義へと至る流れを紹介する。 原因論としての受容と、社会学的パースペクティブとして分岐していく二つの系譜に整理する。ゴフマンのスティグマ論との異同にも触れたい。	**トピックス④** **ダイバージョン** **（赤池一将・龍谷大学）** ダイバージョンは「犯罪者を刑事手続から早期に離脱させ、刑務所収容の弊害を回避させ犯罪者の社会復帰を促進させる」諸政策として理解されている。この政策をめぐる言説を整理し、その理論的位相を再検討する。
15:30 ～ 16:50	**理論①** **犯罪学理論への導入** **（上田光明・龍谷大学）** 本講義では、犯罪学諸理論の理解に役立つ概念ないし論点について講義する。法・規則に関する社会観（合意/葛藤モデル）や人間観（性悪/性善説、自由意志/決定論）などを取り上げる。	**理論⑤** **コントロール理論** **（浜井浩一・龍谷大学）** コントロール理論と他の理論との違いは、人がなぜ犯罪をするのかではなく、人がなぜ犯罪をしないのかを説明しようとしたことにある。人を犯罪から遠ざける要因は何か、トラビス・ハーシーの社会的絆理論から考えてみよう。	**トピックス①** **犯罪とメディア** **（大庭絵里・神奈川大学）** 人々の犯罪観と犯罪のメディア表象とは密接な関係がある。インターネット時代の犯罪ニュースとそれへのリアクションを通して、犯罪、メディア、そして社会統制の関係について、その特徴と問題点を議論する。	

・日本犯罪社会学会の会員に関わらず、どなたでもご参加いただけます。

・各講義とも質疑応答の時間あり（また、講義の動画は期間限定で視聴可能です）。